日常はコロナの蔓延で一変。急ぎ足でやってきた少し先の未来を、世の中の消費を牽引する女性の視点から解読していきます。現場もぶらり巡って、新たな気づきを発見するコーナーです。

大きく変わる〝食生活と人間関係〟

私たちの日常にコロナが侵入してきてから、早1年。街を歩けばマスク屋さんに当たり、店に入れば検温・消毒・換気・シールド越しの会話等々。コロナの文字を見ない日はありません。「オシャレ欲」に続き、2回目は「食」について考えていこうと思います。今回、本音を聞いたのは20代～70代の女子146人。なにかとストレスも多い毎日ですが、この生活にも少し慣れてきたのか、暗黙のルールができたり、工夫やいいことも生まれたりしているようです。それではじっくり見ていきましょう。

コロナは多くの生活者の「食生活」と「人間関係」にまで入り込み、猛威を振るっています。以前と比べて「食生活に変化があった」という人は約75％。「人との付き合い方に変化があった」という人は約89％。中でも変化が大きかったのは、子育てが落ち着き外食も会食も多い50代でした。どちらも90％を超え、人間関係に至っては95％ものに変化がありました。

「人と会っての食事の意味」を聞くと、1位：絆や関係を深める道具、2位：活力の素・元気になれる場所、3位：ストレス解消といった順位でしたので、コロナで会食ができなくなったのは、皆打撃でしょう。ランチで発散していた主婦たちは、3度の食事作りにうんざり。ストレスが溜まった人も多いはず。一方、家食が増えたことでいいこともありました。夫が料理をするようになったり、子どもとお菓子を作ったり。「家族や夫・パートナーとの絆や距離が深まった」という人は3割以上もいました。「食に関する行動が生活の中で気分転換のスイッチになっている」と答えた人は8割もいて、食のサービスを上手に使ったり、YouTubeで料理を習ったりしているようです。非常事態でも、食と人付き合いをポジティブに捉えている人が多いのは発見です。

コロナ禍で生まれた食生活の作法や新ルール。

公的な集まりはぐっと減り、人間関係に濃淡のついたコロナ禍ですが、多くの意見を読み解くとそこには新しい法則のようなものが生まれていました。「親しい仲でもコロナに対する考え方には温度差がある」との認識の中、若者からシニアまで日々細かく気を使っているようです。「外食をSNSでアップしない」「フェイスブックより軽くインスタ」「ランチしたことは内緒」「さりげなく消毒」「出かけてもお土産は買わない」「誘うときは慎重に」等々。行動の傾向としても「職場より生活圏へ」「外より家の中へ」「ホームパーティは3家族まで」。「夜より昼へ」「量より質へ」も多い意見でした。

コロナによって私の人間関係は○○になった。

さて、○○にどんな言葉を思い浮かべたでしょうか。自由回答の質問で、「携帯電話の中に入ってしまったよう」といった印象的な回答もありましたが、ダントツに多かったのが「希薄になった」「疎遠になった」など「希薄系」の言葉で、次は「ラクになった」「大切な人がよくわかった」など「ポジティブ感情系」の言葉でした。コロナの出現は、携帯やSNSで増え続けていた人間関係を一旦整理する機会になったけれど、これをプラスに捉える人々が多かったのも発見でした。また、「行きつけのお店で、常連のおじ様と仲良くなった」「オンラインでの付き合いが増え、地方や海外などに交友関係が広がった」などを見ると、行動制限がある中でも、世界が広がっていく人もいるようで、少しほっとします。ちなみに、「公的な集まりや飲み会がなくなって人付き合いがラクになった」と答えた人が一番多かったのは30代。仕事に子育てにと最も忙しく、疲れている世代でしょうか。

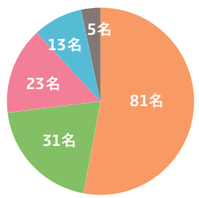
オンラインとリアル、これから期待されるサービスとは。

コロナの収束が見えない中、今後、どんな食のサービスがあったらいいかと聞くと、さまざまなアイデアが出てきました。オンラインでは、世界で開催される料理教室」、「ドキドキマッチング飲み会」、「絶対会えない芸能人とのお茶会」など。リアルでは、「近所の売れ残り食材セールお知らせシステム」、「移動レストラン」、「コロナゼロ食堂」、「サブスクで食材セット移動販売」、「シェフのお気軽出張サービス」など。会えない人に会いたい、行けないところへ行きたい、新しいコミュニティに参加したい、そしてワクワク、絆を深めたい。「日常をいかに非日常化して楽しめるか、そこにリアルな人とのつながりも実感したい」といった考えがあるようです。

コロナは、私たちの生活を大きく揺さぶりましたが、今後、食を介して人間関係も豊かに構築できる、そんな欲求を実現するサービスが望まれそうな予感です。

やまもと・たかよ
女の欲望ラボ代表・女性生活アナリスト。専門は、女性の意識行動研究。独自の「メール文通法」により、20代～70代女子、シニア男子の本音を探り続ける。アジア14カ国16都市の亜女子ラボも活動中、SNSを駆使し随時情報収集。
https://www.onnanoyokuboulab.com

■「コロナによって私の人間関係は○○になった」回答の傾向（複数回答アリ）



- ■希薄系：希薄になった、少し疎遠になった、家族以外はバーチャル中心
- ■変わらない
- ■ポジティブ感情系：ラクになった、気軽になった、大切な人がよくわかる
- ■深化拡大系：必要最低限の人と濃く、深まっている、遠方の友人と濃密に、広がった
- ■ネガティブ感情系：家族にがんじがらめになった、少しさみしくなった

「コロナ禍における食と人間関係」アンケート
•実施　：2020年11月　•調査対象：女の欲望ラボ会員200人中146人（20代～70代女性）
•調査法：オンラインアンケート

未来へ向けて

コロナにより食生活は「密」を避けたが、人付き合いは親密か希薄の二極化。選別され濃淡がついた。今後は変化をポジティブに捉え、食を介したオンラインサービスなど、積極的に関わる者が、新しいつながりを掴み世界を拡大できそうだ。

亜女子ブラリ

中国の今を上海・深圳（しんせん）・成都の亜女子8人に直撃。席数制限等があったのは昨年4月まで。今は日常に戻り、円卓を囲んで賑やかな食事、人気店には行列もできているそうです。「健康カードで国民はコントロールされているので安全という意識の中、行動しています。完全にアフターコロナの感覚です」とは皆同じ意見。日本での研修を終え、現在旅行会社で働く夢さんは言います。「日本では誰が感染者かわからないのがストレスでした。発想が日本と逆。だいぶ元の感覚に戻りました」。感染者が出ると大騒ぎのようですが、「マスクはして、麻雀、火鍋、ネイルサロンと遊び歩いています」と成都女子も話していました。

誌面に掲載できなかった調査内容も、CELホームページで紹介予定（https://www.og-cel.jp/）